

国語 第1学年 かたかなの かたち

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 形の似た文字を、線の長さ・方向・交わり方に着目して区別し、語の中で正しく使う。違いを指で示してから書く。B(1)エの学習として、似た文字の違いの印、正しく書いた字、その字を使う短い語や文。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、自分の文を読み返し、文字の形と意味の対応を確かめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 似た文字の違いの印、正しく書いた字、その字を使う短い語や文を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: つまづく児童にはどんな支援をするか。

返し: 全体の見た目だけで判断する、似た字を続けて書き誤りが固定される。これに対して、独自例「シ・ツ」「ソ・ン」を拡大し、点の向きと長い画を書き始める位置を比べる。空書きの後に語で使い、正字の見本で確かめる。〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「よく似た文字の、どの線を見ると見分けられますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 似た文字の違いの印、正しく書いた字、その字を使う短い語や文は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し: 独自例「シ・ツ」「ソ・ン」を拡大し、点の向きと長い画を書き始める位置を比べる。空書きの後に語で使い、正字の見本で確かめる。完成品だけでなく、似た文字の違いの印、正しく書いた字、その字を使う短い語や文。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10: 振り返りを感想だけにしないためには。

返し: 「よく似た文字の、どの線を見ると見分けられますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

